

① 学習指導案

プログラム	No.01 「ひそんでいるぞ！カオ・かお・顔」 No.07 「看板からまちの風景を考える」
単元名 (全 時間)	算数科「図形の見方」 創造活動「つくり つながる」
学習のねらい	人間がつくり出した商店街の景観と自然がつくってきた城下町高田の景観を比べて考えることを通して、それぞれのよさに気づき、これからの地域の景観とかかわる自分の考えをもつ。
学習内容	1「気付く」：商店街を訪ねる中で、看板のある商店街の景観を感じとる。 2「まとめる」：体験を通して感じたことをレポートや絵にかき表すことで、商店街の景観に対する思いをより一層膨らませたり、陶芸と自然とのかかわりを深めたりする。 3「比べる」：商店街の景観の魅力について考える活動を通して、商店街の景観と自然がつくり出す景観を比べ、自分の考えを深めていく。 4「伝える」：陶芸の魅力を全校児童や地域の方に伝えたり、仲間と自分の考えを伝え合ったりする活動を通して、これからも地域の景観を大切にしていこうとする思いを膨らませていく。
参考資料 準備品 実施場所等	高田本町商店街 学校





学習の流れ




時間	学習活動	教師の指導	評価
4	1 商店街を訪ねる中で、看板のある商店街の景観を感じとる。 ・見付けた図形を写真に記録する。	・一人一台iPadを持たせ、自分が見付けたものの形を写真に記録できるようにする。	
4	2 体験を通して感じたことをレポートや絵にかき表すことで、商店街の景観に対する思いをより一層膨らませたり、陶芸と自然とのかかわりを深めたりする。 ・気付いたことを作文シートやレポートにまとめる。 ・自分で陶芸用の土を採取し、陶芸に取り組む。	・陶芸家との意図的な出会いの場を設定する。	

2	3 商店街の景観の魅力について考える活動を通して、商店街の景観と自然がつくり出す景観を比べ、自分の考えを深めていく。 ・自分の考えをもとに、意見交流を行う。	・仲間と意見交流する場を設定する。	商店街の景観と自然がつくり出す景観を比べて考える。
6	4 陶芸の魅力を全校児童や地域の方に伝えたり、仲間と自分の考えを伝え合ったりする。 ・自然からつくられた陶芸の魅力を地域の方に伝える。	・陶芸の魅力を伝える場を設定する。	

② 事業実施報告書詳細

学校名 上越教育大学附属小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
4	本町商店街	商店街を訪ね、商店街にある看板のある景観を感じとる。	 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで気付かなかったけれど、町のいろいろな場所に線対称や点対称な図形がある。 ・人間は、見た目のきれいさを考え、整った図形を使っているのだと思う。
4	学校 陶芸家の 仕事場	体験を通して感じたことをレポートや絵にかき表すことで、商店街の景観に対する思いをより膨らませたり、陶芸と自然とのかかわりを深めたりする。	 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある自然からこんなに素敵なものができるなんて考えてもみなかった。

2	学校	商店街の魅力について考える活動を通して、商店街の景観と自然がつくり出す景観を比べ、自分の考えを深めていく。		<ul style="list-style-type: none"> ・商店街のきれいな景色は人間がつくり出した景色である。しかし、自然がつくり出した景色も美しく、魅力的だと思う。だからこそ、これからも守っていかなければいけない。
6	学校	陶芸の魅力を全校児童や地域の方に伝えたり、仲間と自分の考えを伝え合ったりする。	 	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸を紹介するだけでなく、土をさわってもらった場を設けた。校内の土でも陶芸ができる土になることを知ってもらったことができた。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>身近な商店街にある形をみる活動を行うことで、線対称や点対称などの図形が様々な場所に存在することにつながるとともに、商店街の景観に気づきをひろげることができた。</p> <p>創造活動「つくり つながる」で、陶芸を身近な土からつくる活動を行うことで、自然がつくる景観に目をひろげることにつながった。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>土を攪拌させたり、乾燥させたりすることは、時間がかかるため、陶芸ができあがるまでの時間を考慮して活動を進めていく必要があった。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>本町商店街の中で見付けた図形が予想以上に線対称や点対称な図形があることに驚き、身の回りの景色との違和感をもつ子どもがいた。そこから「どうして人間がつくるものには、線対称や点対称な図形が多いのか」と疑問につなげていた。また、自分たちが繰り返しかわってきた陶芸には、自然が多くかかわっていることに気付いた子どもは、自然の美しさ、</p>

自然がつくり出している景観にまで考えをひろげた。人間がつくり出した景観と、自然がつくり出した景観を比べながら、それぞれのよさを感じつつも、これから先、自然と共生していくことの大切さを感じていた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

子どもが体験後に記述したシートを読んだり、子どもと共に活動したりすることを繰り返しながら、子どもの行為とその背景にある思いを重ねてみるようになった。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

全校児童に伝えた後、もっと様々な人に伝えたいと思いを高めた。そこで、地域の方に伝える場を企画した。しかし、コロナ禍での制限された活動となり、地域の方に自分たちが直接伝えることはできなかった。今後は、制限のある中でも、子どもの思いを大切に活動を展開していきたい。